

次世代に桜の風景を残したい
桜再生事業にかける思い

なぜ私たちはこんなにも魅了されるのでしょうか。優雅で華やか、そしてはかなげな姿が私たちの心を虜にする「桜」。桜前線とともに、見慣れた風景を淡いピンク色に染めるこの花は、日本人であることの誇りを感じさせてくれます。大分市内でも花見のシーズンには多くの人たちが桜の下で風情を楽しみますが、私たちが毎年、美しい桜を觀賞できるように、桜を守り再生するための取り組みが行われています。

市内中心部にある大分城址公園。ここには約50本の桜の木が植えられており、花見のシーズンにはたくさんの人たちでにぎわいます。しかし樹齢50年を超える木が多く、樹木が弱ってきたため、市では再生方法を検討。長年、私たちを楽しませてくれた桜を守り、次世代へつなぐため、平成27年度から3年計画で「大分城址公園桜再生事業」に取り組んできました。今後、生育が望めない木を新しい木に植え替えるだけでなく、幹から出てきた不定根と呼ばれる新しい根を地面に誘導し定着させる処置や、木の周りの土壌改良、枝の剪定、間引きなど、桜が健全に成長するためのさまざまな努力がなされています。

この事業に携わった、市公園緑地課の小野俊二さん。普段は市職員として公園の管理などをしていますが、実は樹木医の資格を持つ「樹木のお医者さん」でもあります。巨樹や古木を保護することを目的として、木の健康状態を診断し治療するのが樹木医の仕事。桜再生事業の際には、木の空洞の大きさを計測し、倒木の恐れがないかなどを判断、処置方針を提案しました。「結果が目に見えて分かるには時間が掛かりますが、少しずつ葉っぱの色が良くなったり、木が元気になったりと、成果も出ています。青森県にある弘前公園は桜の保護活動が盛んで、樹齢が100年を超える木もあります。大分城址公園の桜も手入れをすればまだまだ元気な育ってくれると思います。次の世代にもこの美しい風景が残せるよう、今後も見守っていききたいですね」と小野さんは語ってくれました。

大分城址公園へ行くと、柵に囲まれた桜があることに気がきます。桜の根は呼吸をしながら、土から水分や養分を取りますが、土がカチカチに踏み固められると酸素がなくなり、呼吸ができないう状態になってしまいます。そのため、土を掘り返して土壌改良を行い、桜に栄養を届ける工夫がされているのです。柵はその土を保護するために設置しているので、花見の際、私たちも桜への気遣いを忘れないで楽しみたいですね。

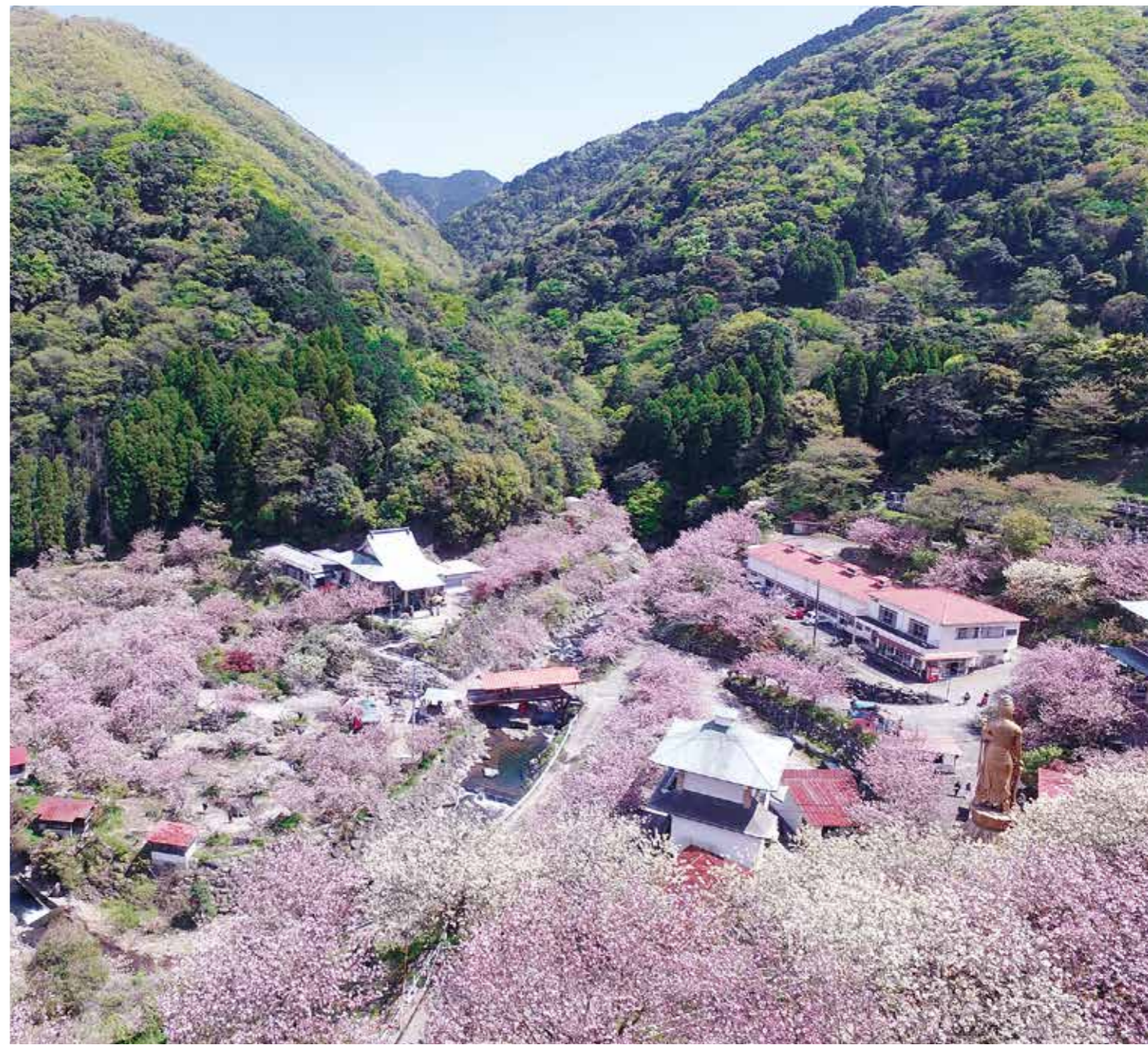


大分城址公園



樹木医の資格を持つ市公園緑地課の小野俊二さん

「ソメイヨシノは幹が空洞化すると、そこから根が発生することがあります。根は、そのままでは枯れてしまうので、空洞部分に堆肥などを入れ地面に誘導し、新しい根として活用しています」と小野さん。樹木医の資格を取得して16年。好きな桜の風景は点々と咲く高崎山の山桜だそうです。



一心寺

市内中心部から車で30分ほどの場所にあり、ボタンザクラで有名。ピンクや黄色、白など約15種類800本のボタンザクラが咲き乱れます。見頃は例年4月中旬ごろ。
 ㊟ 一心寺 ☎541-3029 ※拝観料が必要となります(大人700円、子ども200円)。